

水田内雑草の適切な防除による アカスジカスミカメ対策について

～ カヤツリグサ科雑草やノビエの発生が多いほ場では、
アカスジカスミカメが多数確認されています ～

1. アカスジカスミカメの発生生態と今後の発生予想

斑点米カメムシ類の主要種であるアカスジカスミカメ（以下「アカスジ」という。）は、ホタルイなどのカヤツリグサ科雑草やノビエ（以下「雑草」という。）の穂に産卵し、増殖する。そのため、水田内で雑草が繁茂するとアカスジの侵入と増殖が助長され、斑点米多発の原因となる。

前年8～9月の本田内すくい取り調査によると、斑点米混入率が0.1%を超えた23地点では、アカスジの関与が17地点（74%）と多かった。また、0.1%未満の地点に比べ水田内雑草が多く、すくい取り頭数も増加する傾向がみられた（表）。

そのため、前年と同様に水田内で雑草が繁茂した場合、アカスジの多発が危惧されることから、下記の対策により雑草の適切な防除に努める。

2. 防除対策

- 1) 水田内へのアカスジの侵入と増殖を防ぐため、各ほ場の発生草種にあった除草剤を適期に散布し、水田内の雑草防除を徹底する。
- 2) 除草効果を高めるため、一発処理除草剤は代かき日から10日以内に使用（ただし、ラベルに記載された使用時期に従うこと）し、散布時は田面の高いところでも水深5cmを確保する。
また、除草剤散布後の7日間は止水を行い、排水路への落水をしない。
- 3) 水稲の作付規模が大きい経営体では、移植と除草剤散布を計画的に実施し、除草剤の散布作業が遅れないよう留意する。
- 4) 雑草が残った場合は、草種に応じた中・後期除草剤を選択し、適期散布により、雑草の開花・結実を抑制する。

3. 資料

表 斑点米混入率が0.1%を超えた地点における加害種の主体（令和2年8～9月）と
水田内雑草の発生状況（令和2年8月1～2半旬）

加害種の主体 ^{※1}	地点数	アカスジ(頭)	アカヒゲ(頭)	水田内雑草 ^{※3} (株/㎡)
アカスジ	12	4.4	0.3	1.6
2種混発	5	3.2	1.2	2.6
アカヒゲ ^{※2}	4	0	6.3	2.7
不明	2	0	0	1.2
斑点米混入率 0.1%未満	57	1.2	0.4	0.6

※1 すくい取り調査から推定

※2 アカヒゲホソドリカスミカメ

※3 カヤツリグサ科雑草・ノビエ

【 問合せ先 】

秋田県病害虫防除所 TEL 018-881-3660
秋田県農業試験場 TEL 018-881-3326
掲載HP <https://www.pref.akita.lg.jp/bojo/>